

2014年度 ジョージ・ヴァチナーゼ准教授 ピアノ 特別講義

1. 日 時 : 2014年 12月 12日(金) 13時 30分～16時 45分
2. 場 所 : F号館 434教室
3. 対象学生【必修】 : 大学専攻科ピアノ専攻生
4. 講師紹介 : ジョージ・ヴァチナーゼ氏 (George Vatchnadze)

裏面参照

5. 講義概要 :

《 公開レッスン 》

1. 塩谷 智栄理(大専)
ショパン ピアノソナタ第3番 口短調 op.58 第1楽章
2. 野村 有理(大専)
リスト バラード第2番 口短調
3. 綿谷 紗里(大専)
ラフマニノフ ピアノソナタ第2番 変口短調 op.36
(1931年改訂版) 第1楽章

George Vatchnadze ジョージ・ヴァチナーゼ

“説得力に溢れ、驚くべき確かな演奏技術”
ダニエル カリアガ氏 『ロサンゼルス・タイムズ紙』にて

“注目を浴び続ける若手ピアニストの一人”
パトリック ミーナー氏のインタビューにて

ジョージ・ヴァチナーゼ(George Vatchnadze)は、アメリカ、カナダ、イギリス、オランダ、フィンランド、イタリア、イスラエル、ロシア、日本、台湾、中米および南米にてオーケストラやリサイタルを行うなど幅広く活躍している。特に、ハリウッド・ボウル・フェスティバル、ラビニア・フェスティバル、ストレージ・フェスティバル、ロッテルダム・フィルハーモニック・“フィリップ・ゲルギエフ”・フェスティバルなどにおいて演奏を行い、さらにサンクト・ペテルブルグの白夜祭およびミッケル音楽祭(フィンランド)には度々出演している。1997年に名誉あるエジンバラ国際フェスティバルにて衝撃的なリサイタルデビューを果たし、スコットランド新聞“ヘラルド”紙のヘラルドエンジェル賞を受賞した。オランダ国営ラジオ、BBCそしてNPR(ナショナル・パブリック・ラジオ)の”Performance Today”に出演。1999年には、リンカーン・センターのアリス・タリー・ホールにてニューヨークリサイタルデビューを果たす。音楽家で評論家のフォービアン・パワーズ氏は、アメリカンレコードガイド誌に”ヴァチナーゼ氏は音楽力、知力ともに頂点を極めた熟練ピアニストである。繊細な演奏技術をもって広い音域を意のままに奏でる”と評している。

ジャンンドレア・ノセダ氏の指揮によるキロフ・オーケストラと、ロシアのサンクトペテルブルグのマリンスキー劇場およびロンドンのコヴェント・ガーデンにて演奏を行い、ザルツブルグフェスティバル、フィレンツェ五月音楽祭、ストレージ・フェスティバル、ギルモア・フェスティバル、ラヴェンナ・フェスティバル、ロンドンのウイグモア・ホールおよびニューヨークのミラー劇場でも演奏を行っている。

最近では、ワシントンDCのストラスマア・ホール、ウッドストックフェスティバル(NY)、スタンフォード・ストラヴィンスキー・フェスティバル、パシフィック・シンフォニー・ラフマニノフ・フェスティバル、SYArts フェスティバル、日本公演、その他公演にて演奏活動を行っている。

これまでに、ソニーおよびエクセルシオ・レーベルにて、ヤンスク・カヒツェ氏の指揮でトビリシ交響楽団と演奏したラフマニノフのピアノ協奏曲第2番、ラヴェルの左手のためのピアノ協奏曲の2枚のCDをリリース。両CDはともに何度も再発され批評家より高い賞賛を得ている。アレクサンドル・トラージェ氏およびパーヴォ・ヤルヴィ氏との共演によるフランクフルト放送交響楽団のCDに参加している。今年新たにギヤ・カンチェリ氏のピアノ曲、スルハン・ツインツァーゼ氏のチェロ・ピアノ曲をリリースする。

トビリシ中央音楽学校にて英才教育を受けた後トビリシ国立音楽院に進学しマネス音楽大学、インディアナ大学サウスベンド校を卒業。

アレクサンドル・トラージェ、アルカディ・アローノフ、ワンダ・シウカシヴィリ、ラリッサ・バクターゼの各氏に師事。ジーナ・バックアウアー国際ピアノコンクール(1994年)、パームビーチ招待国際ピアノコンクール(1998年)、アラバマコンクール(1996年)および世界ピアノコンクール(1997年)にて入賞。

現在、シカゴのデポール大学音楽学部にて准教授およびピアノ主任を務める。指導学生の多くが数々のコンクールで入賞し広く世界中で演奏活動を行うなど活躍している。